明治廿九年一月一日印刷
明治廿九年一月三日發行

婦人衛生雜誌

第七十四號

私立
大日本婦人衛生會

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

大日本婦人衛生雜誌 第七拾四號 目次

講演

◉若き婦人の精神病　醫學博士　榊　俶君

◉北里博士血清療法演説（前號の續）

衛生叢談

◉燐創と曹達液

◉齒の養生

◉痰中の結核

◉衛生と雞卵

◉愼病

◉流行性感冒

◉刀圭社會の現況

◉大日本婦人衛生會々況

◉廣告

大日本婦人衛生雜誌 第七拾三號 目次

講演

◉種痘と天然痘の病毒に就て　醫學博士　緒方　正規君

◉生理學講義（第四回）　醫學博士　坪井　次郎君

◉北里博士の血清療法演説

衛生叢談

◉酒と煙草の嗜好

◉虎病豫防の注意

◉臺灣熱

◉不產黴菌性水製造機械の實地試驗

◉來年はコレラ大に流行せむ

◉三府に於ける本年の虎列剌

◉鷄卵中の害虫

◉東西摩按術の差異

◉日本人享年の平均

◉吸付煙草と酒盃の献酬

◉マラリヤ熱の流行

◉癩病の研究

◉タコ娘

◉大日本婦人衛生會例會

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人衛生雜誌第七拾四號
（明治二十九年一月三日發行）

講演

●若き婦人の精神病

（十二月七日於華族會館婦人衛生會總會）

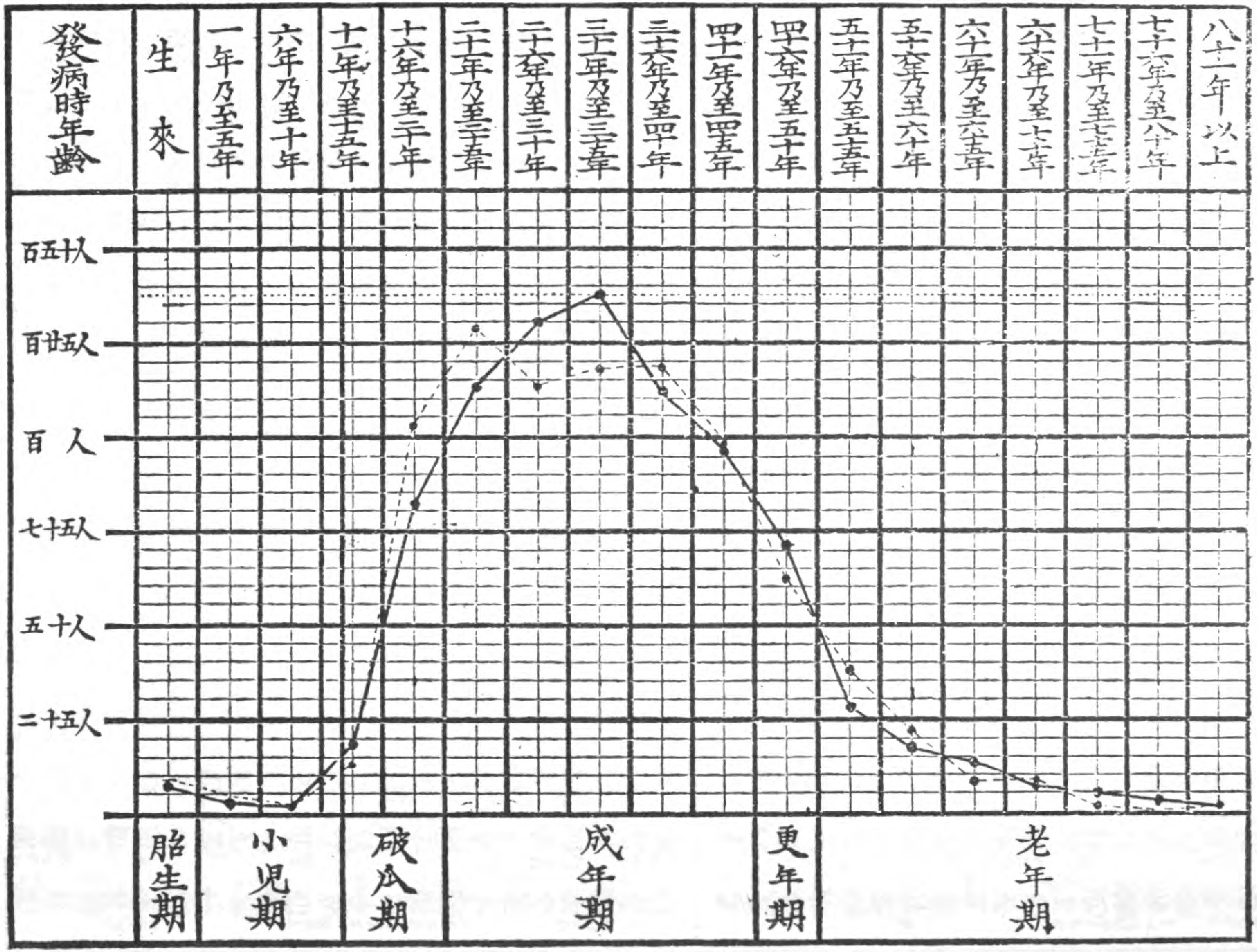
醫學博士 榊 俶君 演説

私は本會には相變らず御無沙汰を致しました、今日何か衛生上の心得になる様な事を、話をして貰ひたいと云ふことを、會長よりの御依賴で出ましたのでございます。ソレで今日は「若き婦人方の精神病」と云ふ題を揭げて、ソレに據ッて御話をするつもりで御座います。此演題を擇びましたと云ふものは、近頃精神病と年齡との關係に就て取調べた事が御座います、既に先達も日本教育會に於て、小學校及び中學校の學齡時に於て、發する精神病の種類を述べた事も有りますので、幸ひ其事を精はしく調べて居ります。且つ明治二十一年以來本年十一月迄の間に、巣鴨の病院に於て大分多くの病人を診まして、多少成績も御座います、ソレなどに就て年齡と精神病の關係を調べましたので御座いますが、此精神病と年齡との關係を申上げて置きましたならば、餘程衛生上の注意を仰ぐ事もあるだらうと思ひまして、ソレで此題を擇びましたので御座います。殊に若き婦人方……特別に若きと云ふことを入れましたのは、此時が最も衛生上必要の時期である、ソレは段々後に細かく御話を致しますが、婦人方は小兒から成人になりまする其遷り往く時が最も危險で有るので

ございます。デ固より若きと云ふ意味は、決して何歳から何歳までを若きとすると云ふが如き確乎した境はない、先づ大約のところで申すので御座います。此際即ち年齢の若い時には、精神病とドウ云ふ關係を持ツて居るかと云ふことを知るは衞生上には無論必要で有ります、其外教育上にも大層大切の事で有ります、近頃男子は勿論婦人方でも學校教育を御受けになる、從來は家庭教育だけで濟んで居ツたのが、今日では學校教育を受けなければならぬ樣になツて居ります。其學校教育を受けて居りまする時が丁度小兒から成年に遷る時に當ツて居る、殊に高等女學校高等師範學校の時には、身体精神共に非常に關係の有る時になツて居る。ソレ故教育の方針を定むるにも年齢の關係を調ぶるのが肝要、從ツて皆樣も家庭の教育を成さるに就ても、此事を御聽きになツて置かれましたら、いくらか御參考になる事も有らうと想像して申上ぐるので御座います。

ソレで年齢を調べるのに就て、表を拵へて今日持ツて參ツた故、是れを基礎にして御話を致します其前に表の解を御話致します、私が巣鴨の病院に於て診ました處の病人の數は、婦人が八百四十四人で有ります。勿論其中二度も三度もと云ふ樣に、重ねて入院する人が有りますが、サウ云ふのは總べて除いて、新らしい患者だけが八百四十四人である、但し是れは明治二十一年一月より本年十一月迄を計算したので有ります。ソレから比較に申しますが、男子の方は千六百五十餘人で有ります。デ先づ女子の方も八百四十四人故、總て此多數の精神病患者より種々の事を調べる事が出來

ます、其中の一ッが即ち今日御話をする年齢との關係で御座います。此八百四十四人を年齢に從ッて區別をして見ますると、固より年齢と云ふのは入院をした時の年ではない、則ち病を發したときの年齢、入院をするしないは第二段で、假令病は發しても各都合に因ッて病氣が起ると直ちに入院する人も有り、或は程經て入院する人も有りますから、是れは的にはなりませぬが、唯大切なるは病を發した年齢即ち發病時の年齢に因ッて次の表を作ッたので御座います。デ此表の事を一寸說明致しますと、表と云ふものは、皆樣の中には御承知の御方も有りませうが、數を以て示すと甚だ見惡くい、何歳から何歳まではいくらと云ふやうに、一々帳面を繰披いて見るのは誠に見惡い、故に此表は一目して瞭然と解る樣に、曲線を以て說きましたので有ります。丁度熱病の患者が有りますれば、日々朝夕に体温を計つて、点を打つて記すやうにしたので有ります。デ横の線は人數を現はしたので有ります、一番下になにも無いところは數があいのでございます、乃ち二十五人五十人と云ふやうに數が識ッて居ります。而して百人なれば百人の處に点を打ち五十人なれば五十人の處に点を打ッて、其點を結び附けたのであります。ソレで此通り山が出來て居りますが、つまり山の高い處は人數が多いので有ります。縱は年齢を示したのである、ソレで一番初めに生來と云ふのは、生れ付き普通の人でないと云ふことである。其次から一年乃至五年と、だん／＼に五年宛に纏めてありますが、是れはすなはち其年齢の間は病に罹つたものを、五年毎に纏めましたので有ります。



本表ノ黒線ハ女子ノ患者數ヲ示ス其全數ハ八百四十四人ニシテ明治廿一年一月ヨリ同廿八年十一月ニ至ルマデ東京府巣鴨病院ニ於テ治療セシモノナリ点線ハ男子患者ノ比例數ニシテ各年齢ニ於ケル差異ヲ顯ハサンガ爲メ女子全數ヲ基礎トシ改算シタルモノナリ

ドウか此表を順次御覽下さい、此表の曲線に因ッて見ますると、生來精神の普通でないものが幾人か有りまして、十歳までは數が少ない、十一歳から二十歳に至ります迄が山が急に高くなる、即ち數が急に增したのであります。ソレから二十一歳より三十五歳に至るまでは、前の期より緩かに漸々に數が增して來ます。三十五歳から四十歳迄五年の間は急に減じて四十一歳から五十五歳に至るまでは、線に少しふくらみが出て來る、乃ちふくらみは三十五歳から四十歳迄五年の間に於て急に減じたものが、此線のふくらみたる處は、稍緩かに減じて往きます。五十六歳以上は漸々數が減ッて、一番終りが八十一歳以上の人が有ります。ソレ故先づ是れで御覽になりますると、婦人の精神病は何の年齡を問はず、生來から高老八十歳を超すまで有るのであります。男子も同じであります。唯最も精神病の盛にありまするのが、三十一歳以上三十五歳以下で有ります其一番餘計なところと云ふものが、八百四十四人の患者の中の凡そ百三十七八、隨分多い數で、八百四十四の凡そ五分の一だけの數を、此時に占めて居るのであります。ソレで御覽の通り、十一歳から二十一歳までが登ることが一番急である。ソレから三十五歳以下は稍緩かになッて居ります。小兒期の事は今日の演題に屬して居らぬ、私の申すのは乃ち滿十一年から漸々に登ッて往く處の年齡に就て御話をするので御座います。ソレで段々述べました處は、五年每に表を作ッて拵へましたので有りますが、尙は外の方法に因ッて區別をして見ますると、初めの生來と云ふのは胎生期……

胎生期と云ふのは母の胎内に在る時と云ふのです生れてから凡そ十一歳位ゐまでを小兒期と申します。滿十二歳から二十歳に至るまでを、破瓜期、二十一歳以上四十五歳迄が成年期四十六歳から五十五歳迄が更年期、ソレから先きが老年期、斯樣に六期に分ちて見ることが出來ます。ソレで今急に精神病者の數の增す年齢は、即ち破瓜期に相當して居ります、此時分は御婦人の身體が一變する、即ち一人前の女子に成る時で有る。而して元より身体の烈しい變動と共に・精神も變動するので有ります。此時には如何なる事が有るかと云ふ事は委しいことを申さずとも、誰しも皆御承知の事で有ります、此時期に際して精神病者の殖えると云ふものは、丁度身體精神の變動する時であるが故でございます。ソレから成年期即ち二十一歳以上四十五歳までは、身體は勿論精神を勞することも一定の方向を取ッて居ります、ソレで此間と云ふものは、精神病者が漸々に增加して參ります。何故精神病者が殖えるかと云ふに、御婦人が生涯の生活中で、結婚を成されてから後三十五歳に達するまでの間と云ふものは、精神を勞する事非常である、尙ほ又妊娠出産と云ふことが有る妊娠出産等が初めて此時に來るので有ります。何事に拘らず、初めと云ふものは困難の生活をしなければならぬものであつて、初産は一番苦みが酷い、段々後になると、身体が妊娠等に慣れて仕舞ふ故、割合に甚だしい苦みはしないで經る事が出來ます。ソレのみならず三十五歳以上と云ふものは、獨立の生活が出來るやうになッて、心を痛め苦むると云ふことが、若い時より割合に少なくなります。

併なから又更年の期に到りますると、身体に一變動を來たします、更年とは年を更へると云ふことで、此時は各人に因ッて多少の差はありますれど大抵四十五歳から五十五歳位ゐの間が更年の時期で有ります。此時に於て、身体の變動が起る、即ち是れまでに妊娠出産等は有ッたけれども、此更年期に至りますると、妊娠の機能を失ッて仕舞うので御座います、此時は婦人方の精神には、一種名狀すべからざる苦みが有る、是れまでは一人前の婦人で有ッたものが、此時に於て是れまでの生活に比べて見て、何か精神の中に物足らぬ感があッてソレが非常に心痛になり常に心持が悒々として面白くなく悲しき樣な風になる、此時に當ッて心の痛みから漸々精神病になる人もあり、或は心痛を避ける爲めに、此時から飲酒を始める。デ先づ日本では婦人方が酒を飲むと云ふことは少ないが、歐羅巴あたりでは婦人の酒飲みが隨分澤山在る、日本の婦人の酒飲みと云ふのは、大概四十六歳以上の者に多い、而して割合多量になッて、男子も及ばぬ樣な者が隨分澤山在ります、ソレが爲めアルコール中毒を來たす樣な事が有ります、此更年期を經て老年期になりますると、精神は穩かになッて若い時のやうに精神を勞することもなく從ッて精神病の數も減じて參ります。此表を御覽になりましたならば、精神病と年齢との關係は、成程斯う云ふものであるかと云ふ事が御解りにならうと思ひます。而して表の中の黑い曲線は婦人の精神病の數を現はしたもの、傍らの點數は男子の精神病の數で有ります。此表で看ますると、成年期に於ける精神病者は、婦人の方が多いやうに

見える成程三十五歳以下は婦人の方が多く男子の方が寡いが、併し成年期總体の數を聚めると、矢張り男子の方が餘計になります。但し更年期に到りまするど婦人の病者の方が多い、男子は更年期老年期に於ては、殆ど直線であるが、婦人の方は山をなして居ります。先づ前より述べましたる處が、精神病者と年齡の關係に就ての大體で有りますが、何は若き婦人の事に就て、特別に御話を致します。

前に申す通り、元より何歳までが齡若きとするど云ふことは無論言へない、唯比較上斯く申すので假りに十一歳以上三十歳以下を齡若いと認めて、ソレに就て御話を致します。此時に於ては、精神がドウ云ふ風の病氣を發するかと云ふに、十二歳以上二十歳以下の處に於きましては、心が大へんに荒くなります、通例申す處の顛狂即ち亂暴をする精神病、或は躁狂と云ふ。二十一歳から三十歳までの間には、臟躁狂、是れは西洋語で言ふところの「ヒステリア」、是れは通例言ふ血の道、積氣等が基礎となッて、續いて精神病を惹起すので御座います。而して「ヒステリア」積氣等は婦人には隨分餘計有る病氣で有ります。併し此「ヒステリア」は、一の神經病で精神には異狀が無い、處が是れが漸々に募ッて往きますると真個の發狂になるので有ります。此臟躁狂は二十一歳以上の年齡に於てあるのですが、斯う云ふ病者は大抵二十歳以前からその萌芽は有ります少しく物に駭いて全身の痙攣を起し、或は皮膚の感覺に異狀を起し或は腹腔内に一種の感を抱き、或は逆上、或は腦充血を起し易くなる等の事が有ります、ソレ等の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

事は大概月經と共に、結托して來る。既に前から爾う云ふ萌芽があッて、ソレが段々進むに從ッて發狂にあるので有ります。デ實際に照して看ますると、臓躁狂 即ち「ヒステリア」から來たる精神病は、若き婦人に一番多く在るのでございます。此「ヒステリア」の來たる時と云ふものは、御婦人の身體上又精神上に夥多の原因が來たるので有ります。先程も鳥渡端緒を申した通り丁度二十一歳から三十歳位ゐまでの間、或は早い者は十二歳以上二十五歳以下は、婦人の生活の變る時で有ります、最も大切なるは此時に結婚と云ふ事が有る、ソレに續いて妊娠と云ふことが有ります。又結婚と云へば主に嫁に往くのですから、其家の多くの人に仕へ、其家風に慣習する迄は、晝夜心を安ずる暇なく、萬事に注意をしなければならない。恰も學校に在ッて書物を暗誦し、道を學ぶと同じやうな事を習はなければならぬ、其精神の勞し方は實に非常で有ります。

ソレから日本の結婚の仕方は、歐羅巴亞米利加に比較して見ると餘程違ッて居ります、日本では結婚をする、乃ち嫁を貰うと云ふと、其人を貰うつもりであるが、歐羅巴亞米利加の風は、丁度財産も教育も適當した者が彼我の權衡を見て結婚をするので、人を貰うと云ふ意味ではない。日本では相當の財産を持ッて嫁に往く者も有りませうが、多くは婦人と云ふものは自分の生れた家の財産を得ることが出來ない、即ち自分の財産と云ふものは無くして、他の家に嫁しまして、種々の境遇に處して、最も心を勞します。サウ云ふ譯故、充分に衛生を盡すと云ふ事は出來ませぬ、譬へば食物

衣類等に至るまで、夫に比較して見ると、婦人の方が何れも粗なる物を用ひて居る、一例を申して見ますれば、男子の食料と妻君の用ひる食料とには自ら別が有る、而して其別はいつでも婦人の方が劣ッて居る、是等は間接に、身体の營養を損ずるものといはなければあらない。凡て何事も爾う云ふ釣合故、ドウしても其間の精神病と云ふものは、割合に余計に在る筈でございます。

モウ一ッ大切なる事は、即ち離婚、此離別と云ふ事は西洋では餘程六ヶ敷いですが日本では至ッて容易いので有ります、東京府の月々或は毎週の報告を見ましても、日本に於て離婚の容易いと云ふことは分ります、大抵其割合は結婚が三件有れば離婚が一件有る、精しい事は覺へて居りませぬが、なんでも一と三ととの割合に記臆して居ります。

今日は結婚法も容易く、離婚法も亦容易いので有ります。此結婚と離婚と云ふことは、ドウ云ふ影響を精神上に及ぼすかと云ふことを、顛狂の上に就て調べた事が有ります。其調べに因て看まするると、日本では結婚をしない婦人より結婚をした婦人の方に精神病者が多く在ります。西洋は其反對で、結婚をして配偶の在ります者には、未婚の者より精神病が寡い。ソレから又離婚の權衡を見ますると、日本には寡婦の多き事歐羅巴などよりは凡そ五六倍餘計で有ります。ソレで寡婦とある者は夫が死んであるものも離別に因ッてなるものも有りませうが、死亡と云ふ事は、歐羅巴も日本も左程の差は無い、御承知の通り日本の人口は年々増加して往く故、死別れと云ふことは歐羅巴より割合に寡い位ゐ、サウして見ると寡婦の多い原因

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

は離婚より外無い。而してソレが歐羅巴より五六倍多くあるのでございます。ソレで二十一歳以上三十五歳位ゐ迄に達する間には、離婚者が餘計有る、ソレ等の事が原因となッて畢竟此時に精神病が多く有るのです。

斯くの如く若き婦人に精神病者の多い原因は解ッて居りますが、さて其原因を除き去らうと云ふのは、ドウしたら宜いかと云ふに、是れは一大問題でありまして、今日茲でいくら理窟を並べても、之を實行することは到底出來ない、先づ第一に日本古來よりの慣習が自然に更ッて來ない中は、實行することが出來ませぬ。併し出來ないと申して其儘に默して居りましては、注意が足らぬ次第でありますから、先づ前に述べたる原因を出來得るだけ除きたいものであると云ふことを、皆樣が御心の中に藏めて御在にあれば、ソレで充分で有ります。今直ちに實行しやうと云ッても、急に財産を拵へる事も出來ず。人の妻たる者が舅姑に對する義務を更むると云ふことも出來ませぬ故、精神病の原因として、斯樣の事もあると云ふことを心に藏めて、而して成るたけ是等原因を除ける方針を取らなければならない。今是れは單に衛生上の論で有りますが、何事にも慣習と云ふものは大切なるもので、容易に之を除き去ると云ふことは出來ませぬ。例之ば下等社會などに於てはうまく人を騙して、財産を奪うとか云ふやうな手段を施す者を以て却ッてソレを名譽とし、是等の者を指して働きが有るとか、才子だとか云ふ樣な習慣である、ソレ等の事は道德上より云へば最も惡るい事である、惡るい事ながら慣習となッて居る、又

衛生上の事もサウである、例之は上水下水の事を論じますと、誰しも下水の流通をよくしなけれはならぬ、上水を撰ばなけれはならぬと云ふことは知ッて居る、知ッて居ッて一般の人が其考へでありながら、實行が出來ない位ゐて有る。況して精神病が未發の時に於て、精神病は斯く／＼の原因で發する故、斯う云ふことは除はなけれはならぬと云つて着手すると云ふ事は、到底望むべからざる事で有ります。唯私は皆様が其精神を御用ひになつて、子孫／＼に話し繼いで御出でになッたならば、其中には世の中の風潮も變ッて、慣習も改良の方に赴き、ソコで始めて効を奏するを得るに至るで有らうと思ふのでございます。

先づ差當り御注意の有るべきは、女子が小兒期からの容子を御覧になッて、此子は普通の小兒即ち健全なる小兒とは身体と精神とがドレだけ差があるかと云ふことを、常に注意して居るのが最も必要、ドウも此子は齡より怜悧過ぎるとか、或は他の小兒より進歩が遲いとか、若くは充分でないとか、或は記臆が惡るいとか、或は惡るい癖があつて、充分に物を與へても他人の物を欲しがるとか何か異ッた事があれば、ソレを注意して居るのが肝要、而して是れは病氣の爲めであるか、或は教育の完からざる故であるのかと云ふ辨別を立てるのが必要で有ります。ソレで小兒の時から精神の一種變ッた者が數々有る、ソレは大抵は遺傳と云ふものが澤山有ります。遺傳と云ふのは其小兒の父母或は祖父母に何か神經病の有るを云ふので、發狂のみには限らぬ、其外の神經病等が有ッても、前申すやうな一種變ッた精神の小兒が出來ること

が有ります、爾う云ふのは家庭敎育を與へる時に已に其狀態が解ります。一種變ッた精神と申しても、各異つて居りますから、一々例を擧げることは出來ませぬが、或は兩親の命に順はぬとか或はドの位ゐ嚴格或は溫柔に取扱ッても惡しき癖が去らぬとか、或はその反對で普通の小兒より非常に靜で、所謂大人じみた容子の小兒が有る、例之は女兒が六ッ七ッ八ッ位ゐの齡になりますると、好んで御手玉を取り、羽根を突き鞠を弄して、餘念なく遊ぶのが普通であるものを、ソレ等の遊戲は更に致さないで、祖母さんの傍で織物を爲し或は厨屋で下婢の手傳などを致したがる小兒も有ります。サウ云ふものにも御注意がなければならない、而して是れは敎育上の結果から來たか、或は全くの性質であるかを識別して、適當の人と協議してソレに因ッて敎育の方針を定むるか宜い。世間一般の習慣として、子供の中に怜悧で殊に機用であッて、音樂を奏でさせればたくみに調を合せ或は裁縫をさせると仕立屋も及ばぬ位ゐ、或は書畫の樣なものを美しく作るとか云ふやうな者があるが、ソレ等は多く精神の發育が偏ッて居るので大槪年を取ッてから身体精神の發育が止つて仕舞う、恰も蘖牙の獨活の樣で、無理に育つても、外に出して置くと枯れて仕舞う、是れと同じ道理故若しソレに强いて學校敎育を授けると、遂に中途にして枯るゝやうな不幸を見るに至る、故に斯う云ふものには、餘り學校敎育などはさせぬ方が宜い、或は精神のみならず身体の發育も停ッて仕舞ひます。

ソレから破瓜期に達して一人前の婦人にならうと

若き婦人の精神病

云ふときには、此時こそ非常の變動を來たすときゆへ、成るたけ精神を勞させぬやうにして、身體を遣ふ事、即ち身体の運動にある事を主にさせるのが宜しいので有ります。併し又小兒の時からの情態が、殊に注意をしなければならない。此子は小兒の比に斯樣な風であッた故、今破瓜の期に際しては斯く〳〵にしなければならぬと云ふことを心の中に止めて、成るたけ精神を刺戟しないやうな方針を取ッて御在にならなければならない、此時が一番破裂し易い故最も注意を要する時期で有ります。

ソレからして破瓜期を過ぎまして成年期に將にならんとする婦人に就ては、先づ第一に小兒の時分から多少身体に變動の在ッた者は、結婚の事に就て余程御注意にならなければならない、ト云ふ者は神經病等の遺傳が有り、或は小兒の時からの氣質が異ッて居る者に對して、世の人が往々斯う云ふ風の者は、早く嫁に遣ッたら反ッて宜しいかと云ふやうな考へをなすものが有りますが、サウ云ふ事は、好結果を得るものではない、反ッて配偶を得た爲めに精神に變動を來たす事がある、今日は一々例は擧けませぬが、實際斯う云ふ例が屢々有ります。サウ云ふ譯故遺傳若くは幼より氣質の他人と異りたる者などは、其進退を自由にして專ら精神を安靜にするのが必要、例之ば彼處は財產家であるとか、此處は名譽のある家だとか云ッて、是非其處に遣りたいと思ふて、傍らより之を強いると云ふやうな事はしないやうに注意するのが大切でございます。

モウ一つ大切なる事は、婦人が配偶を得るときに

適宜の財産を授くると云ふことは至極必要の事と思ふ、先刻も申す通り婦人が配偶を得るときは、衣類手道具の外に、尚は財産を得る者も稀には有るが、一般から云ふときは財産を得ないのが普通であるが、是れは成るべく適當の財産を與へるのが至當と思ふ、丁度是等の事は歐米の風習が最も宜しいと存じます。假令嫁に往ッても財産を持ッて居りますれば、他に障碍は有ッたにせよ、多少精神を安靜にすることが出來る。ソレで先づ私の考へは男子の方は一定の教育を授くれば充分で後は自分一個で立ッて往く事が出來るが、女子はサウ參らぬ故、婦人には教育の方は緩かにしても財産を授くるのが適當と思ふ。併ながら是等の事は一朝一夕に成し得べからざる事でありますが、前に述ぶる如く、皆様が始終此心を持ッて御在なされたならば、庶幾くは精神病者の數を減ずるを得ることゝ存じます。

今日は詰らぬ問題で長く御話をして、定めて御迷惑でありましたらうと思ひます、先づ申上げ様と思ふた事は是れだけ、なほ細かい事はいくらも有りますが、ソレを申すと限りの無い事でありますし、殊に短日の折から御迷惑と察しますから、今日は是れで御免を蒙ります。

④北里博士の血清療法の演説 （前號の續）

報告

是からが廣尾避病院に於きまして、虎列剌患者に應用したお話を致します。大變長くなりますが宜けれはお話致します（謹聽）それで東京府の廣尾病院と云ふものは麻布の先きの廣尾村にありまして

其避病院を今度開いたのは明治廿八年八月六日に之を開きました。さうして十一月の十日即ち本月の十日を以て入院する事を止めた。それで丁度滿三箇月中だけ入院患者を茲で取扱ッた併し第一に茲は邊鄙でもありまするし、此廣尾病院の受持ッて居る處は、東京府の區內で割合に患者が少なかッた、彼の本所や駒込程患者を取扱ッて居らない患者の總數は二百八十九人取扱ッた。其中に擔いで來て避病院の門に這入らぬ中、途中で死亡したのが九人ある。それから入院をして避病院の門には這入ッたけれども、床に就けぬ中に死むだ者が九人ある。此あとの九人と云ふものはそれでござりますから、藥を服まする時間も何にも無くして吾々の此醫者の手に掛らぬ處の病人と看做さねばならぬ。それだからして此十八人と云ふものは、吾々が治療した中から差引かなければならぬ。さうすれば總數が二百七十一人となる所が二百七十一人の中大便を檢査した處が——吾々が今日眞正の虎列剌か眞正の虎列剌で無いかと云ふ事を見分けるには、唯大便の排泄物を檢査して見て、此中に古弗の虎列剌バクテリアが有るか無きやを檢索して見れば間違ひない事でありますから、それで其大便の檢査をして見たが、二百七十一人の中で一人の子供の大便を度々檢査して見て三日間十分に之を調べて見たが黴菌を見出しませぬ。因て是は吾々の治療上から除かなければならぬ。固より助かッて出ましたけれども、斯う云ふ者を入れては本當に吾々が虎列剌患者を治療したと云ふ事に傷が付きますから、此病人は一人除かなければならぬ。さうすると二百七十人と云ふものが本當に

病院で取扱ッた處の虎列刺患者である。さうして其二百七十八人の中血清療法、即ち先刻からお話しした血清を以て治療したのが百九十三人―二百七十人の中百九十三人血清療法を施したが殘りの七十七人と云ふものは血清療法が出來なかッた、血清療法をなせしなかッたならば、どうも實に之は悉く血清療法をする事が出來なかッたのは非常に遺憾の事ではあるが、如何とも仕方がないのは開院した時分免疫した所の動物と云ふものが極く少なかッた。なぜかならば實は當年直ちに之を人に應用して虎列刺患者に血清療法をやるまでに往かうと云ふ事は、始め動物を免疫する時分に考がなかッた。因て少數の動物をしか免疫をしなかッた。それでござりまするから始めて廣尾病院を開いた時分には、羊が二頭と山羊が壹頭の外には十分に免疫した動物がなかッた、所が此三頭の動物より取る所の血清の量と云ふものは、一日一人か一人半位の患者にだけしか用ひられぬ。さう云ふ次第であつたからして血清療法を悉くやる譯に往かずして、百九十三人だけしか出來なかつた二百七十八人の中七十七人血清療法をやる事が出來なかつたのは實に殘念だ、併し終りになつては動物をドシ〳〵免疫をしたから、今日は羊が十頭、山羊が十頭免疫してあるから十月以來と云ふものは血清を應用する事が都合が宜くなッて、其後の病人は大概血清療法を施したのでござります。それから治療した所の患者、則ち廣尾病院に這入ッた所の二百七十八人―其二百七十八人の中でどれだけ死んで、どれだけ助かッたと云ふ事を調べて見まするど、全患者二百七十八人の中死亡が百三十八

人、全治したのが百三十二人、之を死亡比例に取ッて見ると百分の五十一、一だけのものが死んで居る。是はゴタマゼに混せて斯うなッて居る。血清を施した所の百九十三人に對して死亡比例の割合がどれたけあるかならば、死亡したのが六十四人、全治したものが百二十九人、之を死亡比例を取ッて見る、百分の三十三、一即ち百人に付て三十三、一死んで居る割になッて居る。

是迄日本に流行ッた所の以前から虎列刺患者の統計、それから獨乙のハンブルグ、マリエン病院に於て試驗した成績に依るとハレブルグ病院で試驗した成績中、マリエン病院をなせ茲に引合に出ましたならば、先年獨乙に虎列刺の流行ッた時分にマリエン病院の成績が非常に好かッたと云ふて大層獨乙人が誇ッて居る成績であるから比例に出して見る。さうして見ると日本での虎列刺患者の數と死亡數は明治十二年に流行ッた時は患者の數が十六萬二千六百三十七人あッて、其中死亡したものが十萬五千七百八十六人、之を死亡比例に取ッて見ますると六十六%、それから十五年が五萬千六百三十一人の患者で、其中三萬三千七百八十四人死んで居る。是も六十五、四%となる是は死亡比例が割合に大變宜い、宜いが當にならぬ。なぜならば此中には本當の黴菌學上の撿査をしたのではないから、所謂眞正の虎列刺でないと云ふものが這入ッて居りますから死亡が少ない、其證據は段々先に往くと悪くなッて居る。それから明治十八年の時に虎列刺患者が一萬三千七百七十二人でありまして、其中九千三百十人死んだからして、六十七、六と云ふ比例になる。それから明治十九

年に十五萬五千九百二十三人の中十萬八千四百〇五人死んで居る、其死亡比例が六十九、五%となる。明治二十三年が四萬六千十九人の中から三萬五千二百二十七人死んで居る。是は非常に死亡比例が多くあッて居る。此比例が七十六、五%、二十四年が一萬千百四十二人の中七千七百六十八人死んで居る。之が六十九、六%と死亡比例がなる、それから今年の初發から十一月の二十日までの虎列刺患者の數と死亡數を全國のを見ますると、丁度五萬六千四百十九人虎列刺に罹ッた。さうして三萬九千八百〇一人死んだ。是を死亡比例をして見ると七十、五%、東京府のばかりが三千四百十三人の中から二千四百七十人死んで居るから、是は死亡比例が惡い七十二、四%、それから獨乙のマリエンホンピタルの治療の成績はどうかならば二百五十八人の中百八十人死んで居る。是れは六十九、七%と云ふ斯う云ふ統計であります。大概虎列刺の死亡比例と云ふものは七十%内外が通例である。此虎列刺に對する死亡比例の七十%内外と云ふものは、通例何處の國でも間違がない、即ち其七分通りは死ぬとる云ふ事は虎列刺に對して免かれぬ所のものであつた。殊に病院で治療した所の成蹟と云ふものは、獨乙、日本のみならず何處の國でも成績が惡い。なぜかならば御存知の通り虎列刺に罹つてから第一にそれを受持つて居る醫者が屆けて、それを撿疫醫が往つて撿査する。そうして避病院に送ると云ふやうな手數をするからどうしても、半日以上も掛る、甚しきに至つては一日も掛ッて避病院に擔ぎ込むと云ふやうな譯である。虎列刺を發してから十時間以上打遣ッ

て置いた時は、是は如何なる事があッても悉く之を助ける事が出來ない事は、分り切ッた事であります、其上患者を駕籠の中に載せて途中に動搖するから益々病勢を惡くすると云ふ事は、當り前の話であります。それでござりますから病院の治療成績と云ふものは何處の病院にしても虎列剌の患者に對しては宜くない。却て全國の患者を一緒に寄せた所の成績が好い。それは先刻話し申した通り當にならぬ。其の中には本當の虎列剌でないものもあるから當にならぬ。兎に角七十%内外と云ふものは是迄の虎列剌の死亡比例と見て宜いそうすると廣尾病院で血清療法を用ひた處の死亡比例は其の半數にも當らない。即ち三十三、一でござりますから其半數にも達して居らない。併ながら吾々のやッた處のものは不幸にして悉く血清療法をやることが出來なかッたから、或はナアニ彼等は眞症の者だけに血清療法をやらぬで置いて、輕症のものだけへ血清療法をやッたのであらうと云ふ疑もありませう。それで來年やります時には今話しするやうに十分に血清を備へて居りますから悉く出來ますけれども、本年は間に合ひませなんだから間ひの子のやうな成績の出來たのはそれは據所ない。それで吾々が今日血清療法をやッたのばかり言ひませずに、やッたのもやらぬのも一緒にコタ混ぜにした處の成績を以て之を他に比較して見てもまだ五十、一でありますから、殆ど二十違ひますから、其成績が惡くなくして善かつたと云ふ事は之を以ても確められる、さうして假りに虎列剌患者の七十%死ぬるものを五十%に減ずることが出來ても、大變なもので本年全

國五萬六千餘人の中から七十%死んで居るのをうれを五十に減じて即ち二十減ずるときは、一萬千人以上も死亡數を減する事になりますから、隨分治療に取つては少なからぬ利益と考へます。

それから廣尾病院でやりました處の方法を少しばかりお話するも無用の事でないと思ひます。廣尾病院では虎列剌患者が這入りますれば必ず、一々其糞便を撿査して培養てし見て、さうしてまだ疑はしいのは動物試驗までして見て、さうして十分に虎列剌で有るか無いかと云ふ事を確めてやツたのでありますから、先刻お話し申した通り二百七十名と云ふものは是は眞正の虎列剌に間違ない。で血清療法を施しました處の經過をお話するのは、醫者の諸君には隨分必要の事と思ひますからお話を致します。血清療法を行ツて十分に血清が効いた時分に、病が速に輕快すると云ふ事は大變、著るしいで血清を注射した後に病人に注射した部分には——此注射が實扶的里の血清を注射すると同じく腋の下或は胸の邊り或は股の邊り成るたけ皮膚の克く持上るやうな處へ多量の血清を注射すると、注射部が少し痛がりますけれどもナニ大した痛い事はない。それから一時間乃至二時間經ちまして血清が効いて來ますと、非常に煩悶して居ツたのが追々其煩悶が減じて來て快くなる。虎列剌の患者は全躰胃部が壓迫して、胸が詰ツて居るものも大變に快くなツて來ます、精神が極く靜になツて多く睡くなツて來て睡入ツて仕舞ふ。是は獨り虎列剌の血清のみならず實扶的里でもさうであります。何でも患者の一度血清を注射すると暫くすると、靜になツてスヤ〳〵睡入ツて仕舞ふ

虎列刺の血清も矢張さうであります。さうして暫くして眼が覺めて見ると患者が大變喜んで、心持が非常に違て善くなつたと云ふ事を言ふ。それは自覺的の話でありますが、今度は他覺的のお話を致します。さうして今迄皮膚が彈力性を失つたのが彈力も段々元に復して、さうして四肢に痙攣のあつたのが、痙攣も無くなッて來まして一躰に病狀が大變快くある。第一心臟の音が始め本當に聽き取れぬ位にある、けれども是も聽取ることが出來るやうになる。從ッて脈搏も強くなる。御存じの通り虎列刺のひどい奴は、始め脈が殆どありませぬ。血清が効いて回復するのは實に意外の事がある、非常に回復を克くする、さうして從ッて利尿を非常に早くする、是は血清の効能の一に算へて決して間違ないと言ふて宜い、皆さん御存じの通り隨分重い奴にあると、中々三日も四日も小便の出ないと云ふものも決して少い事ではない血清の爲に生ずるのはウルチカリヤの出る事であります。是に困ると云ふ程の障りはありませぬけれども。病人が蒼蠅さがつて困る。一日二日の間は痒がッて困る。大抵一週間早い時には四日間にウルチカリヤが出る。是は殆ど免かれない事であります。併し是は一日二日にして無くなる。是は實扶的里でも同し事で百人に對して七十人位迄はウルチカリヤが發するのであります。それから先刻御話し申したやうにフアイフヱルは重病患者に血清を注せば、益々惡くされるであらうと云ふ事を案じて居りますが、吾々が實地に大變重い患者に血清を注して見ても惡い症狀を發したものは一人もない。フアイフヱルは實地に人に應用して見

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ればゞ自分の想像說の間違ッて居ると云ふ事が分るに違ひない、それから此血清が虎列剌患者の重もなる症候に對して、どう云ふ關係を持ッて居るかと云ふ事をお話するのも是も亦必要である、第一に躰溫と血淸の關係、是は大變必要な事である。それで始終廣尾病院でも二時間置に躰溫を取らせて見ましたが、先刻お話したやうに動物試驗では血淸を注射すると躰溫が下ッて來る。下ッて來てそれから又回復すると云ふお話をしましたが、人においてはさう云ふ事はない。人においては躰溫は一向變りがない。是は躰溫表も今度報告します時分に一緒に出しますから、それに就て御覽になれば分りますが、漸々と躰溫が上ッて——虎列剌の躰溫は固より低うござりますから、それが平穩に復して來ます。血淸を注射しても躰溫に別に關係はない。漸々と躰溫を回復させるだけの事である。

それから脈搏と血淸の關係、血淸を注射して非常に著しく効の現はるゝのは、心臟の衰弱した奴がズット回復して來る。是は著しいものであります。さうして脈搏の不整なるものもズット正しくなッて來ると云ふやうに、心臟と脈搏とは血淸の注射の爲には非常の關係を持ッて大變快くなッて來る。それで血淸を注射して豫後の如何を知るには、之を以て殆ど知らるゝと云ふ位にある。血淸を注射した後に五、六時間經ッてから、心臟の音がズット正しくなッて來て、さして脈も強く觸れるやうになれば、もう其豫後は必ず宜いと云ふことは殆んど間違ないやうになる。

それから吐瀉の關係がどうかならば、血淸を注射

して吐瀉を減ずると云ふ事はありませぬ。けれども血清を注射すれば段〳〵と吐瀉の數が減ッて來る。さうして二、三日も經てば一向吐瀉をしないやうにある。別段に外の藥を用ひぬでも……

それから排尿との關係、是も必要である。虎列刺患者の豫後の良不良をトするには、速く排尿するのと遲く排尿するのとは大變に關係を持て居りますから、血清療法をやつたのは先刻も御話するやうに排尿を促す。大概血清療法をやれば重いのでも廿四時間内には一遍小便が出て來ます。それから段々量が增して出て來ます。其譯は心臟の働を強くしますから、矢張自然と排尿も早めて來るらしうござります。

それから血清と虎列刺黴菌との關係はどうかあらば糞便中の虎列刺黴菌の數が血清を注射した後には段〳〵減ッて來る。減ッて來ますけれども悉く死ぬる譯ではない。一週間内になくなるものあり二週のものもある。それは一定して居らぬ。併ながら血清を餘計注射した患者には虎列刺黴菌の無くなる事は早い。是だけは間違ない。其證據には輕い患者ならば血清を二十瓦位しか注さなかッた患者もある。それから重い患者は六十瓦注した患者もある。所が多く血清を注した患者は、割合に黴菌が早く無くなッて仕舞ふと云ふ事がありますそれで此血清の量の多い少いは黴菌を無くしますのにも餘程の關係があるらしい。マ一ツ其證據は先刻から御話申たやうに、動物の躰にて血清が虎列刺の黴菌を殺して仕舞ふと云ふ事は、是は虎列刺血清に限ッて一種特有の性質を以て居るものである。他の實扶的里などは斯う旨くはいかない。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

虎列剌の血清は大變善い性質を持ッて居る。それさらして之を虎列剌患者に飲せて見た。此事をもう少し早く氣が付いてやれば宜かッたが總て實驗と云ふものは——一番始めにやる試驗には悉く完全の考は人間は懷かれるものではありませぬ。段々やるに從ッて人間が怜悧になりますから即ち始めには之を飲まする事はやらなかッた。なせならば私の始めの考は血清が胃の中へ這入れば、胃液の爲に血清の働が弱くなるに違ひないと云ふ。さう云ふ考を懷いて居ッて其試驗をしなかッた。それから後になッて虎列剌黴菌が動物躰にて血清の爲には殺されるから、飲ませて見れば幾分か効かうと云ふ考を以て患者に飲まして見ました、虎列剌黴菌の餘計に居ッた患者に血清を二十瓦飲まして見ると、一日二日經ッと虎列剌の黴菌が無くなッて仕舞ッた。此試驗は後になッてしたのでございます。確なる事は申上げる事が出來ませぬが、此血清を飲ませて見る試驗も亦大變必要であらうと思ひます、此事に就て未た別段善し惡しの事は申しませぬが、兎に角効きさうでありますから十分に實驗をしたい。それに就ては胃液に依ッて血清が果して分解されるか或はどうか血清の働を無くさせるかと云ふ事は試驗をして見ましたが、胃液の試驗と云ッて人工で胃液を拵へて試驗をしたのではない。胃液に含むで居る處の鹽酸の分量と云ふものは、是は生理學上で分ッて居りますから、其分量に血清を入れて置いて、それを混せてさうして三時間四時間混せて置いて、それを動物に先刻から試驗をしたやうに動物試驗をして見ると血清が尚ほ元の儘で効く、

胃を通してやつた時には胃液の爲には害せられぬらしい、虎列剌の患者の胃液と云ふものは、健康の人の胃液とは變ッて居ッて、酸性と云ふやうなものを餘程無くして居るから、倘そこは都合が宜いと思ひます。で此實驗と云ふものは他日益々實驗を積みますが、或は注射と同時に内服させても効があるかも知れませぬ。

それから今度は血清の爲めに起る處のものはどう云ふものかあらば、先刻御話したやうに第一實扶的里血清と同じやうにウルチカリヤと云ふものが時々出來る。ウルチカリヤは先づ殆ど血清を注射した病人に發しない事は無いと言ッて宜い。速いものは三日遲いものは一週間を置いて發する。其發するのは注射部から發して來て、漸々全身に及ぼして來る。丁度通例のウルチカリヤのやうに發して來る又痲疹のやうに猩紅熱のやうにあッて來るのがある、併し之は先刻御話したやうに別段害が無い事で、唯病人が痒がるだけの事で他に苦しい事も何にも無い。唯皮膚がホテッてそれから後に病人が痒がる事がある。熱が高くなる事もあります一日二日經ては關節痛——是はさう餘計にはありませぬが時々あります。百九十三人の中十三人だけ關節痛を起した。此關節痛は重もに肘の關節が痛んで、指のやうな小さい關節などは痛んだものはなかッた。それから筋が痛むのがある。百九十三人の中に六人それがあッた。

それから腎臟炎を血清の爲に起すかどうかと云ふ事は、是は本當の腎臟炎を起したものは一人も見出さない。見出さないけれども御存じの通り虎列剌患者は尿が止ッて居ッて、第一に排尿する時に

は其中に多少蛋白質が這入ッて居る。這入ッて居るけれども是は血淸を注射しなかッてもそれがあります。一向血淸の爲にどうと云ふ事は無ッた。

（以下次號）

衛生叢談

◉燐創と曹達液

日常マッチを磨るに當りて燐の一片飛散して手の創の內に入るときは實に恐るべき燐の中毒を來すことあり故に人々使用の際には充分注意に注意を加ふるを要す若し過ちて燐の一片創內に入りたるときは速やかに曹達を水に溶かしたる液の中に其手を挿入するを要す然るときは化學的の變化によりて全く無毒なる物質に變化し中毒の憂に罹ることなしといふ

◉齒の養生

齒牙は食物を咀嚼し言語を發する等至大の關係を有するものなれは特に注意して保護するを緊要とす齒牙不完全なる時は爲めに咀嚼の力に乏しく屢々胃病及腸胃カタル等の病患を發すべし故に每朝及就褥前即夜寢ぬる前には必らず齒牙の掃除を怠るべからず之を掃除するには西洋風の楊子を用ゆべし日本性房楊子の如きは齒齦を害すること夥しとす通例齒を磨くに左側の齒より磨擦すれとも其初めは磨擦力强よく爲めに齒牙を磨損する患ひあり故に右側より磨き始むるをよしとす而して食後には必ず小楊枝を用ひ其渣滓の齒の間に狹まらぬ樣注意すべし但し小楊枝とても深く用ゆべからす然らされは爲めに齲齒を生す虫齒の生ずる

一例を擧げんに今酸類の齒を害する證を擧げんに試に卵の殼を酸液に浸すときは暫時にして溶解す是れ卵の殼は齒の質と同じもの故食物腐敗して齒牙の間に於て酸敗するときは前と同じ結果を生じ其害を蒙むるに至るべし飮食物の禁忌すべきものは堅き物、炮豆、菓實の類、飴、鯣、金米糖、乾烏賊、干鮑、非常なる温熱物寒冷物等は尤も忌むべきものにして砂糖類は他の食物より酸化すること甚だし故に菓子屋職人の多くは齒の完全なるものなきは又是れが爲なり故に是等の者に注意し併せて食後口内を清淨ならしむること緊要なりとす

●痰中の結核

痰中の結核は容易に撲滅せざるものにして結核患者の痰を其儘攝氏十度に於て貯ふるときは十日乃至十四日間位は其毒性を保ち二周日を經れば害なきに至る又之を純良の空氣中に貯ふるときは痰の種類空氣の寒暖等に由て二日乃至四十四日間其毒を失はざるものとす又結核の痰分解して三日乃至九日の久しきに亘るときは「バチルス」は死滅して痰は全く其毒性を失ふものなりされば肺病患者の痰はゆめ〳〵注意すべきことなり

●衛生と雞卵

雞卵の人体榮養に効あるは已に世の知る所なれども唯喰しさへすれば滋養となるものとし分量度數を定めざれば有益なる滋養物も却て有害たることあるべし飮食物の量度は自然其人の身体に應じて定る加之殊に最も注意すべきは其雞卵の新鮮なると否とを吟味することなり如何程雞卵が身体の營養に特効あるものとするも其卵にして既に産卵後數十日を經過せしものは特効を失ふは勿論にして

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

雞卵の効能は新鮮のものにありて產卵後一日を多く經過すれば其丈けの効力を減ずるものなりされば日々新鮮卵を用ひんとするには自家に十羽內外の雞を飼養して日々產卵する處の新鮮なる卵を用ふるの外他に優れるものはなかるべし十羽の雞あれば少なくも一日に五六顆の新鮮卵を得べし一家に十羽內外の鷄を飼養すればとて與ふべき餌料の如きは日々厨下の殘物もあり空しく掃溜中に埋沒せしむるよりも之を雞に與ふることゝせば雞の餌料を減じて廢物を利するの益もあるべく殊に惡疫流行の折抔に雞肉雞卵の需用多きは其の季に際して毎年の事なるも此惡疫に罹りて斃るゝ者あるは決して其起因なきにあらざるなり其起因たる多くは不消化物又は腐敗に垂んとするものを食するより起るものなれは此際雞肉雞卵抔の需用世間に多きは當然の譯なれども其雞肉にせよ雞卵にせよ効能の如きは唯々新鮮の一點にあるものにして腐敗に近きものは其滋養に特効を失ふのみか却て害を釀すの誘引物たるべきなり自家食用鷄卵の如きは自家に飼養せる處の雞が日々產みたる新鮮のものを用ふることゝせば衛生上の利益は假令之を眼前に見るを得ざるも間接には身体の榮養を增して萬壽の齡を保つの一助たるを得べきなり

◉愼病

古語に常ニ作二病想ヲ一と無病の時病ある日のくるしみを常に思ひやりて風寒暑濕の外邪をふせぎ酒食好色の内欲を節にし身体の起臥動靜をつゝしめは病なし又古詩に曰く安閑常ニ思二病苦ノ時ヲ一と云ふことあり病なくて安樂なる時に初め病に苦しめる時を常に思ひ出して忘るへからす無病の時愼あ

りて恣まゝならざれは病生せす是病おこたりて良藥を服し鍼灸をするにまさるなりサレバ邵康節の詩にも其病後能く藥を服せんより病前能く自防ぐにしかずと云へるが如し

又曰く古語に病は癒ゆるに加はると云へり病少しく癒ゆれは快きをたのみて怠りて愼ます少し快しとて飲食色慾など恣まゝにすれば病却ッて重くあるなり故に病少しく癒えたるとき彌々かたく恐れ愼みて少かのやぶれなくれてたらされは病早く癒ゐて再發のわざはひなし此時固く愼まされは後悔すとも益あきなり

病ある人養生の道をは固く愼しみて病をばうれひ苦しむべからず憂ひ苦しめは氣ふさがりて病加はゝる病重くてもよく養ひて久しけれは思ひしより病ひいゑやすし病をうれいて益あし只愼むに益ありもし必死の症は天命の定まる所憂ひても益あし心をくるしむるはおろかなり病を早く治せんとしていそげば却ッてあやまりて病をます保養はおこたりなくつとめていゆる事はいそがず自然にまかすべし萬の事あまりよくせんとすれは返ッて惡しくなるものぞかし　（養生訓）

◉流行性感冒

感冒は人々の稍もすれは感じ安きものにして總ての源病を醸すの本原あれども而かも人の等閑に附することぞ傷ましけれ流行性感冒の原因に就ては「パイフエル」及「カノン」の兩氏は患者の血中及痰中より一種のバチルスを發見せりとエイフ氏は流行性感冒の蔓延に就て調査したるに其所說左の如し

（一）流行性感冒は觸接傳染病あり

(二)人は此毒性黴菌の生ずる泉源なり
(三)患者の分泌物排泄物は病毒を傳播するを得へし
(四)人々の交通は病毒蔓延の主因なり
(五)外氣は傳染の媒ちをなすものにあらず唯稀れに室内空氣に於て之れあり
(六)疾病の潜伏期は長くも二日間なり
(七)呼吸器の疾病は殊に流行性感冒の基因をなす

◉刀圭社會の現況

今度の議會には醫師に關する諸問題を提出せんと計畫するものあるよしなるが現今刀圭社會の有様如何と云ふに日本の醫學は近年長大足の進歩を來し獨逸にも當らさる勢ひありと云へとも一般の醫師を平均するに於ては文明の醫學を修めて免状を有するものは漸く總計の半數に過ぎずと云ふ又其統計を擧くれは

全國醫師總計	三九、六三四人
從前開業醫師	二六、六五〇人
醫學校卒業者開業試驗及第者其他	一二、九八四人

◉大日本婦人衛生會々況

舊臘十二月八日第一土曜日午後一時より麴町山下町華族會舘に於て本會例會を開きしが仁禮濱尾の兩會長以下三十餘名の出席あり醫學士博榊俶君には(若き婦人方の精神病に就て)醫學博士坪井次郎君には(生理解剖學に就て)各々演説せられ午後四時半頃散會せり

廣告

恭祝新年併せて會員の健康を祈る

明治二十九年一月元旦

大日本婦人衛生會

去十二月中より一月に至る入會轉居者左の如し

會員綿谷禮利子の紹介により

澁谷村赤十字社病院　九里登與子

仝　高田屋尾子

仝　岸まさ子

仝　仁東愛子

會員塙登勢子の紹介により

横濱十全醫院　坂本まさ子

加藤ふみ子の紹介により

澁谷村日本赤十字社病院　髙柳てい子

仝　柳川きく子

事務所へ申込により

本郷元町二丁目四十七番地秋間方　後藤淺子

贊成員大竹茂吉君の紹介により

神田柳原町一番地　贊成員　山本幸藏君

轉居

四谷左門町四十番地へ　星野茂尾子

麹町永田町二丁目六十九番地へ　淺井梅香子

麻布東鳥居町一丁目二番地へ　鍋嶋業子

麹町九段坂上靖國神社内へ　加茂東美子

牛込納戸町四十六番地へ　木塲こゆり子

麹町紀尾井町三番地へ　橋本貞尾子

牛込市谷田町一丁目へ　板倉藤子

麹町元園町一丁目廿七番地へ　小泉万千子

麹町下六番町十二番地へ　進とし子

麻布霞町一丁目壹番地へ　門野駿子

本郷六丁目二十九番地岡林方　本間いと子

京橋南八町堀綾井きん方　川俣はん子

大日本婦人衛生會

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

私立大日本婦人衛生會規則

第一條　凡本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持するの方法を講究し衛生上の智識を開發せしめ隨て社會全般の幸福を增進するにあり

第二條　本會は私立大日本婦人衛生會と稱し之を東京に置く

第三條　本會の會員たらんと欲する者は身分の尊卑を問はず何人にても入會することを得

第四條　會員たらんと欲する者は族籍住所姓名を記し本會事務所へ申込ある可し

但事務所は下谷區練塀町四十三番地に置く

第五條　本會々員を分て終身會員特別會員通常會員の三類とし共に會費金を納むる者とす

但終身會員は一時に金拾圓以上を納め特別會員は一年金二圓四拾錢以上を納め通常會員は同金壹圓二拾錢を納むる者とす尤も會員中書生及其他事故ある者は唯雜誌料として同六拾錢を納めしむ

第六條　男子にして本會の主義を賛成する者は之を賛成員とす尤も會費は本會員に同し

但本會に功勞ある者は役員の協議を以て終身賛成會員(無會費)とすることを有る可し

第七條　本會に推戴員を置き其中より總裁一名を奉す推戴員は皇族の御息所等に之を申請するものとす

第八條　本會は左の役員を置く　會長一名　副會長一名　幹事七名　評議員二十名　書記若干名

第九條　會長副會長及幹事評議員は會員の投票を以て之を撰擧し書記は幹事の推撰により會長之を命ず

但書記は都合により會員外の婦人又は男子に托することあるべし

第十條　會長は本會を總理し副會長は會長を補佐し又は其代理をなし幹事は會長の命を受けて會務を處理し評議員は重要なる會務を評議し書記は役員の命に從て諸記錄及雜務を掌る

但幹事の分課を設けて第一　會計　第二　編輯出版　第三　庶務とす

第十一條　會長の見込を以て右役員外に會員中より臨時に指名委員を置くことあるべし

第十二條　會長副會長及幹事評議員の任期は一年とす尤も再撰するも妨げなし

第十三條　會長副會長及幹事評議員は無給料とし書記は相當の報酬を給す

第十四條　本會の集會は七月八月を除くの外每月一同として通常第一土曜日午後一時より之を開く

第十五條　每會學識經驗ある者を聘し講義演說を囑し本會々員の演說と共に之を筆記して本會雜誌に掲載し每月各一冊つゝを無代價にて之を會員に頒付するものとす

但し演說の間に談話を交ゆる事あるべし

第十六條　會員は家族の婦女子又は知己の婦人を本會々場に誘致して傍聽せしむることを得

第十七條　講義演說の際男子の傍聽を禁ず

但會員に緣故ある男子は此限にあらず

第十八條　本會の所有金は本會の名義を以て三井銀行に預くるものとす

但些少の金額は日々の費用支出の爲め事

明治二十一年二月二十八日內務省許可

務所に引出置を得

第十九條　會計の收支は總て會計課幹事の撿印を要す

第二十條　會員又は會員外より金圓若くは書籍物品等を寄贈あるときは本會より謝狀を送り且寄贈の品目及其人の姓名を本會雜誌に載せ報告するものとす

第廿一條　會費は郵便小爲替にて東京下谷郵便局へ向け振出しある可し
但不得止場合には郵便劵を代用するも妨けなし尤も一割增とす

第廿二條　入會員には會員證を附與すべきに付郵便にて申込の者は郵便劵二錢を添ふ可し

第廿三條　毎年三月九月の總會に於て會計の收支庶務の概略幷に會員の增減等を報告す可し且規則改正の案あれば之を議定するものとす尤も議定は總て多數決とし可否半數なるときは會長之を決す
但至急規則の改正を要する事あるときは豫め會員に報して臨時に之を爲すことを得

第廿四條　三月の總會に於て役員の撰擧をなすものとす

第廿五條　規則の範圍內に於て役員の評議を以て細則を設くることを得

第廿六條　各地方にて發起者十人以上ある者は支會を設くることを得
但其規則は本會の規則に抵觸せざる樣起草し本會役員の認可を經べし

第廿七條　本會の集會塲は時々報知する者とす

第廿八條　會費金は受領證を付與すべし尤も小送替又は郵便劵にて納むる者は右受領證遞爲費として郵劵二錢を添ふべし然らざれば受領證は送付せざるものとす

第廿九條　入會後轉居する者は速に事務所に通知ある可し尤も死去の節は親戚知友等より通知ある可し

第三十條　退會せんとする者は會員證を添へて其旨事務所へ報知あるべし

明治二十五年九月

東京下谷區練塀町四十三番地

私立　大日本婦人衛生會

明治廿九年一月一日印刷
明治廿九年一月三日發行

發行所　東京下谷區練塀町四十三番地
大日本私立婦人衛生會

編輯兼發行者　東京牛込區矢來町三番地
田中德三郎

印刷者　同　神田區小柳町十三番地
小高良造

印刷所　同　神田旅籠町貳丁目拾一番地
廣業館

明治廿六年四月四日遞信省認可　第一金曜日發行

（定價金拾錢）